

# 五色沼自然探勝路モニタリング報告

## 【経過】

裏磐梯を代表する五色沼自然探勝路は多くの利用者があると同時に、そのほとんどを国立公園の特別保護地区に指定されている。しかし磐梯山噴火後 126 年という自然環境としては短い時間を経過したにすぎず、その植生遷移はいまだ途切れることなく続いている。そのため、探勝路中の各沼のほとりではヨシ等の侵入や周辺の樹木の成長が著しく、徐々に景観を阻害することになっている。

「五色沼利活用検討会」において、一部の沼（青沼、るり沼）でのヨシの除去作業（当初は刈り取り、現在は倒伏）を実施することが決定された。これに伴い作業後の通景線の確保状況について、裏磐梯エコツアーリズム協会が担当し追跡調査（モニタリング）を行ない報告してきた。現在は無雪期（おおむね 5 月～10 月）に、通景線のほか探勝路周辺の希少植物、外来植物、探勝路の損傷状況等の調査を行っている。平成 26 年度の調査結果についてここに報告する。

## 【概要】

### （1）実施期日

- 第 1 回 平成 26 年 5 月 23 日 曇り
- 第 2 回 平成 26 年 7 月 1 日 晴れ
- 第 3 回 平成 26 年 7 月 28 日 晴れ（7 月 17 日：ヨシ倒伏作業実施）
- 第 4 回 平成 26 年 8 月 28 日 曇り
- 第 5 回 平成 26 年 9 月 24 日 曇り
- 第 6 回 平成 26 年 10 月 31 日 晴れ時々曇り

### （2）調査者

立花千秋、伊藤延廣（第 1 回～第 6 回） 鈴木正代（第 5 回） 卯月幸一（第 6 回）

## 【結果】

### （1）通景線の確保状況

今年度も、通景線調査の対象となる 4 つの沼（青沼、るり沼、弁天沼、毘沙門沼）について実施した。

- ・青沼（地点 C）：第 1 回ではヨシは約 50cm、第 2 回でも 1～1.5m 程度で、視点場の高いこの沼では通景線は確保されていた。
- ・るり沼（地点 E）：第 1 回目は 50cm～1m 程度で通景線も確保されていたが、第 2 回では 1.5～2m ほどに伸びており通景線が確保されているとは言い難い状況であった。その後、7 月 17 日にヨシの倒伏作業が実施されたため、第 3 回以降は一応通景線は確保されていたが、るり沼では倒伏作業が不十分でヨシ、ヤナギ等が沖に列状に残りその後は沼が視認し難くなっていった。
- ・弁天沼（地点 F）：展望デッキがありヨシの倒伏作業は行われていないが、デッキ上からの通景線はある程度確保されている。しかし、調査を進めるにつれてヨシ丈は伸び、第 1 回では 50cm 程度でデッキに上がらずに沼も垣間見えたが、その後は 2.5m～3m（第 6 回）になり全く見えなくなり

デッキに上がっても沼は遠景として見られるのみである。

・毘沙門沼（地点 J）：ここは視点場が高く、通景線を妨げるものはヨシではなく周囲に生育する中低木である。そのため、木の葉の茂る前（第 1 回）と葉が落ちた後（第 6 回）は沼を見下すことができたが、夏の期間は通景線が確保されているとは言い難い状況であった。

・その他：青沼、弁天沼畔では、一部の中低木が整理され、新たに視点場（地点 D、G）ができそれぞれの通景線を補っている。さらに深泥沼（地点 I）、毘沙門沼（地点 J）でも中低木の一部が整理され、視界が確保された。

#### （2）外来植物の生育状況

五色沼における外来植物は、人為的植栽によるものと自然に侵入してきたものとに分けられる。

・キショウブ：柳沼北岸（地点 A）のものは人為的植栽によるものと思われ、駆除されていないため毎年花を咲かせ実をつけ徐々に増加の傾向にある。また、人為的か否かはわからないが、柳沼西岸（地点 B）にも残存する。

・マルバハッカ：人為的植栽によるものではないと思われるが、観光客の出入りの多い柳沼西岸（地点 B）と毘沙門沼畔（地点 L）に点在している。柳沼畔のものは、一時は駆除されたようだがまだ残っている。

・オオハンゴンソウ：毎年一斉駆除を行っているにも拘わらず、毘沙門沼周辺に多く繁茂している。また探勝路の路傍（柳沼、弁天沼等）にも点在していた。これらは調査の折に駆除しているが、完全には駆除しきれず毎年同じようなところで見つかっている。

・コカナダモ：柳沼畔の水中に繁茂している。昨年はあまり見掛けなかったが、今年度はかなり広範囲に繁茂している。

#### （3）希少植物の生育状況

五色沼周辺にはほかにも希少種はあるのかもしれないが、我々が確認できたのは下記の 6 種のみである。

・ミクリ：柳沼北岸および北西岸（地点 A、B）に点在するが、外来種のキショウブなどと混生している場所がある。

・ツバメオモト：前年と同様のエリアに 30 株以上が生育している。開花、結実を確認している。

・ヒメイチゲ：一昨年と同様のエリアに生育している。開花、結実ともに確認している。

・ヒロハツリバナ：毘沙門沼畔（地点 K）に生育している。開花、結実ともに確認している。

・トキソウ：今年度は、確認できなかった。

・オオアカバナ：五色沼東園地（地点 N）に生育（1 株のみの開花）しているのを確認したが、年々減少している。

#### （4）ぬかるみ等歩道整備箇所

探勝路の路面状況は、年々改善されて歩きやすくなっているが、一部に表土が流されて岩角が突出している。

・路面のぬかるみ：天候や時期により左右されるため一概には特定できないが、第 2 回および第 3 回時には弁天沼南岸（地点 F の東約 30m）にできていた。第 3 回時には青沼・るり沼間で、るり沼からの水が探勝路上に流れ出していた。

・探勝路外への踏み込み跡：第 3 回時に、柳沼西岸（地点 B 近く）探勝路入口ゲート脇から沼側へ

の踏み込み跡があった。この踏み込み跡は、第 6 回時には明瞭になっていた。

・休憩用ベンチ：弁天沼・竜沼間の流れの脇（地点 H）にあるベンチ一基が、第 2 回時に破損し固定用ボルトが突出していた。その後、第 6 回時には補修が終了していた。

・伐採跡：第 1 回時、弁天沼南岸（地点 G 付近）の立ち枯れたアカマツが伐採されていた。しかし、そのアカマツが伐採跡に残され景観を阻害していたが、第 2 回時には片づけられていた。

・岩角：探勝路の青沼入口から同視点場（地点 C）への歩道と、るり沼入口の木道からるり沼（地点 F）への歩道に、岩角が多数突出していて足場が悪くなっている。

## 【考 察】

### （1）通景線の確保

通景線確保の対象となる 4 湖沼（青沼、るり沼、弁天沼、毘沙門沼）のうち、青沼とるり沼は整備作業（ヨシの倒伏）後にはおおむね良好な視界が確保されている。

・青沼：倒伏作業の効果はあらわれており通景線は確保されている。さらに今年度新たに第 2 視点場とも言うべき場所（地点 D）が探勝路沿いに整備され、視界は良くなっている。

・るり沼：倒伏作業後にもその外縁部にヨシやヤナギなどが残り、あまり良好な視界が確保されているとは言い難い。さらなる対策が急務であろう。

・弁天沼：展望デッキがあるためデッキ上からの視界は確保されているが、デッキ前のヨシ原が沖に向かって広がり沼も遠景としてしか見ることができない。しかし、新たに第 2 視点場（地点 G）が整備され、そこからは間近に沼を見ることができるようになった。

・毘沙門沼（地点 J）：通景線を阻害していた中低木が除去され、沼を見下す視界が良くなった。

・この他：みどろ沼（地点 I）でも中低木が整理され視界が広がった。

・モニタリング終了後（11 月 12 日）に行われたこの整備作業は、従来から指摘してきた陸域における中低木の整理（除去）が実現したもので、観光にも自然観察にもより良い効果をもたらすものと期待される。

### （2）外来植物

・キショウブ：柳沼畔のものは一部人為的な植栽によると思われ、植栽者（不明）に無断で駆除することもできず放置されている。そのため、年々増加しているように思われる。

・マルバハッカ：柳沼および毘沙門沼畔では、観光客などの出入りが多いために自然と持ち込まれたものと思われるが、繁殖力が強いので早期に駆除する必要がある。

・オオハンゴンソウ：毎年夏の一斉駆除ほか駆除活動が行われているため、その効果は現われているように見えるが、毘沙門沼周辺のもの是一向に減少したようには思われない。その他探勝路の路傍にあるものは、モニタリングの際に見つければ駆除しており減少傾向にある。

・コカナダモ：柳沼では、今夏の異常気象もあってかかなり旺盛な繁殖力を見せていた。

・こうした外来植物に対しては、見つけ次第駆除できるような方法（許認可など）を考えてほしい。

### （3）希少植物

探勝路周辺の希少植物については、専門家が見ればもっと多様な種があるのかもしれないが、我々は元パークボランティアの平野恭弘氏（故人）から教わった 6 種について行っている。

- ・ツバメオモト：所在が探勝路から少し離れているため、ほとんど手つかずに残っている。そのため、年々その数を増やしているように思われる。
- ・ヒメイチゲ：探勝路の路傍にあるが、姿が小さく我々でも見つけ難い場合がある。これも所在が分かれば盗掘の危険はあるが、今年も可憐な花や実を確認している。
- ・ヒロハツリバナ：樹木であるため盗掘の危険はなく、今年も開花、結実を確認した。
- ・トキシウ：モニタリングのタイミングがずれているのか消滅したのか判らないが、今年も確認できなかった。
- ・オオアカバナ：五色沼東園地のもは、周辺のヨシやコーンフリーに負けているのか、確認し難くなっている。ここのコーンフリーは駆除した方が良いのではないかと思われる。

#### (4) むかるみ等歩道整備箇所

- ・路面のむかるみ：天候や調査時期によって異なる。今年第2回と第3回時に弁天沼周辺で確認したが、これ以外にも路面の柔らかい場所があった。弁天沼の展望デッキの下は、整備された結果良い状態が保たれている。しかし、恒常的に路面がぬかたり柔らかかったりする場所が他にもあり、観光客がこれを避けて通るため道幅が徐々に広がり周辺の植生に負荷をかけている。また、第3回時に青沼・るり沼間の探勝路上に流れていたるり沼からの水は、前日の大雨の影響とみられる。
- ・探勝路外への踏み込み跡：何の目的か判らないが、探勝路外へ踏み込んだ跡が数か所見つかっている。今年、柳沼側の探勝路入口標識脇から柳沼畔へ踏み込んだ跡があった。特に第6回時は、周辺の植物が枯れてさらに明瞭になっていた。
- ・危険なベンチ：第2回時に見つけたこのベンチは、土台部分が朽ちて沈み固定用ボルトが突出したものであった。所管部署に連絡し修理を要請し、第6回時には補修され危険はなくなっていた。
- ・伐採跡の処理：ここ数年指摘してきた弁天沼畔の立ち枯れたアカマツについては、今年度の第1回時にはすでに伐採されて危険はなくなっていたが、伐採跡がそのまま残り景観を阻害していた。その後、第2回時には片づけられていた。これは積雪期に伐採し、雪解けを待っていたものと思われる。いずれにしても最近の探勝路整備は、素早くしかも的確であることは良いことである。
- ・路面に突き出た岩角：青沼の視点場に下がる歩道とるり沼へ上がる歩道が、岩角がむき出しになっていて足場が悪くなっている。ある程度服装（履物など）がしっかりした人や健常者には問題ないかもしれないが、軽装の観光客には足場の悪さが気になる場所である。また、前述のむかるみについても同じことが言え、モニタリング時に一度クレームを受けたことがある。探勝路の出入り口（柳沼、毘沙門沼側ともに）には、その旨表示されているが、あまり真剣に読んでいる観光客を見たことがない。今後より多くの観光客を見込むのであれば、さらに周知の方法を考える必要があると思われる。

#### (5) その他

- ・支障木の除去：すでに記したように、従来から指摘していた支障木（陸域の中低木）の伐採が行われ、探勝路傍の各沼が見やすくなったことは良かった。今後も定期的に、裏磐梯の顔でもある五色沼自然探勝路の点検、整備をしていくことで、さらなる利活用が期待できるものと思われる。

以上